

17 高さの変化で植物の分布はどのように区分されるだろうか

高い山に登れば、登るにつれて気温がさがってきます。ふつう 100 m 登ると、気温は約 6℃ さがるといわれています。こうした気温がさがれば、植物分布も変わってきます。これを垂直分布といいます。

福島県は、山岳地帯の標高およそ 1,500 m 以上が亜寒帯に相当する亜高山帯となり、また 2,000 m 内外の山頂附近が、しばしば高山帯となっています。

福島市から、吾妻山の頂上までの標高にともなう地帯と、理想的な植物帯の移りかわりのありさまを考えてみると、次のようになります。

標 高	地 帯	植 物 帯
60 ~ 300 m	平 地 帯	モミイヌシデ 帯
300 ~ 600 m	亜低山帯	ミスナラブナ 帯
600 ~ 1,500 m	低 山 帯	ブ ナ 帯 (山地帯という)
1,500 ~ 1,900 m	亜高山帯	アオモリトドマツ 帯
1,900 m 以上	高 山 帯	ハ イ マ ツ 帯



図一 39 新しい火山では低木化したキタゴヨウが侵入 (吾妻小富士)